

卒業生の仕事： 建築構法研究室出身者は既に 300 名近い。
 職場は、設計・施工から研究・開発、コンセプトワークまで様々。
 会社勤務の他、工務店経営、設計事務所自営など多士済々。



KAさん(1979年卒)の経験
中堅ゼネコンで施工・設計
設計事務所にて設計

HYさん(1980年卒)の経験
住宅メーカーにて設計・施工管理
実家(工務店)にて施工・経営

MYさん(1990年卒)の経験
本学大学院進学
地元設計事務所にて設計
実家(板金業)にて施工管理



AMさん(1993年卒)の経験
内装工務会社にて設計・施工
広告代理店にて企画・提案
鉄道系企業会社にて開発・提案

MMさん(1997年3月卒)の経験
アトリエ系設計事務所にて設計
中小工務店にて設計・施工
設計事務所自営

NTさん(1999年卒)の経験
住宅メーカーにて施工管理;120棟
中央研究所などを経て、新事業開発



大野 隆司 教授
Takashi Ohno, Professor

住まいやビル、学校の屋根や壁、あるいは床や天井の中はどのような構造になっているのでしょうか？最近問題になっている柱や梁はどんな材料・仕組みで建物を支えているのでしょうか？建築を物として総合的に見るのが建築構法。計画で、構造、設備、意匠と様々な分野が対象です。最近ではサステナビリティの視点により建築構法・計画を見直し、コンバージョン(用途変更)や既存建築物の改修・再生の他、その基礎となる建築病理学などに関する各種データベースの作成・分析をしています。

プロフィール
 1968年、東京工芸大学工学部建築学科を卒業(加藤研究室)。ただし在学中はラグビー部中心で、秩父宮にて慶大進部、40年振り明大勝利。主持などを経験。同大卒業(内山研究室)へ進学と同時に松本建築研究所に参加。風防断熱材付住宅に関する住宅の施工管理や部品の構造開発などを経験。学位取得後、1976年、東京工芸大学時代の本学へ講師として着任。1986年に教授。2002年に本学の大学院・学部で教員として採用されている「建築法計画教材」改訂版にて日本建築学会賞(論文)を授けられました。

研究室の仕事

建築構法研究室は建築構法を研究する人間の集まりです
 それで「建築構法って何?」:ある時は計画(意匠)系、ある時は構造系、環境系、...
 以下の最近5年間の論文テーマからご想像下さい

- 卒業論文テーマ一覧**
- 国土交通大臣官庁官庁管理課部監修「建築標準詳細図」の変遷に関する基礎的研究
 - 建材メーカーおよび住宅メーカーにおけるリフォーム構法に関する基礎的研究
 - 修理報告書による民家の構造・構法に関する基礎的研究
 - 邦文文献とWEBによるヨーロッパの世界遺産建築物に関する基礎的研究
 - The Architects' Journal による英国の鉄骨造・RC造建築物のコスト分析
 - 建築病理学に関する文献データの調査・整理
 - 文獻調査による鉄骨造・RC造の構造断面資料の再検討
 - 都道府県別住宅ストックの動態比較
 - 東アジア諸国の風雨条件に関する基礎的研究
 - 「建築工事共通仕様書」における図、表の変遷
 - 躯体工事を中心に
 - 「建築工事共通仕様書」における図、表の変遷
 - 仕上工事を中心に
 - 住宅の不具合とその補修に関する「House Check」翻訳と我が国のDIY文献との内容比較
 - 東アジアと日本における日・6時間・時間単位の風雨データ比較
 - 建築用途に着目した日本と英国における建築改修事例について
 - 「The Technology of Building Defects」翻訳と建築病理学関連文献データの調査
 - 文献調査と計算ソフトによる鉄骨造・RC造の構造断面計画資料の作成
 - 結露に着目した鉄骨造構法の事例分析
 - メーカーカタログを中心とした太陽光発電システムの現状調査
 - 日データを中心としたアジア(インド以東)の風雨条件
 - 文献による建築病理学に関する基礎データ調査・整理
 - APEC 諸国を中心とした木造屋根構法の比較研究
 - 年間寒冷負荷による木造住宅設計支援手法に関する基礎的研究
 - 建築雑誌に掲載された鉄骨増築建築物のデータ整理
 - 「eco-renewalment」翻訳と日本の住宅省エネに関する取組比較
 - 時間データを中心とした各地の風雨条件に関する基礎的研究
 - 太陽光、風力発電を中心とした自然エネルギー利用建築の事例調査
 - 雑誌に見る最近の鉄骨構造建築の傾向
 - DIYによる住宅リフォームを支援する市役所ウェブサイトの調査
 - DIYによる住宅リフォームに対するホームセンターの支援体制に関する研究
 - 木造住宅非構造部材の風振害事例と関連する構法仕様の変遷

修士論文テーマ一覧

- (2009年3月)
 - 病理学ならならた建築の不具合・欠陥に関する基礎的研究
- (2008年3月)
 - 風雨条件と屋根構法に関する基礎的研究
 - 東アジアを中心に
- (2007年3月)
 - 太陽光を用いた自立型住宅の検討方法に関する研究
 - シミュレーションシステムとケーススタディー
- (2005年3月)

種別	建設年度	上層階数	下層階数	総階数	延床面積(m ²)	容積率
A	1973	15	5	20	1157	100
B	1975	15	5	20	1157	100
C	1977	15	5	20	1157	100
D	1979	15	5	20	1157	100
E	1981	15	5	20	1157	100
F	1983	15	5	20	1157	100
G	1985	15	5	20	1157	100
H	1987	15	5	20	1157	100
I	1989	15	5	20	1157	100
J	1991	15	5	20	1157	100
K	1993	15	5	20	1157	100
L	1995	15	5	20	1157	100
M	1997	15	5	20	1157	100
N	1999	15	5	20	1157	100
O	2001	15	5	20	1157	100
P	2003	15	5	20	1157	100
Q	2005	15	5	20	1157	100
- (2004年3月)
 - DIYによるリフォームのための構法情報

大野の仕事

建築部品開発から建築構法開発へと、右肩上がり経済が前提の研究開発がベース
 安定成長(経済停滞)期に入ってから、著作(下記)・監修に評価・選者が中心に
 G-COEの「付かず離れず」メンバーとして、関連研究・論文・国際会議も綿々と



中堅技術者用のマニュアル本
 共著(エクスプレス社、2008年)



工業高校、専門学校などの副教材
 編集共著(日本建築学会、1985年)



共著(エクスプレス社、2008年)



(1990年前後)



編著(市ヶ谷出版、2000年)
 学会賞(論文)授賞対象



共著(市ヶ谷出版、1981年)



分冊執筆(放送大学
 教育振興会、2009年)



著(共著)
 建築雑誌に掲載された鉄骨増築建築物のデータ整理



著(共著)
 共著(共著システム、2006年)

担当科目

建築一般構造Ⅰ・Ⅱ、建築構法計画、
 建築設計製図Ⅰ、建築設計製図Ⅵ

専門分野

- 建築構法の計画・設計・開発
- 既存建築の改修・再生
- オープンビルディング
(多用途順応建築)

研究、実践活動

建築構法って何だろう?

住まいやビル、学校の屋根や壁、あるいは床や天井の中はどのような構造になっているのでしょうか？最近問題になっている柱や梁はどんな材料・仕組みで建物を支えているのでしょうか？建築を物として総合的に見るのが建築構法。計画で、構造、設備、意匠と様々な分野が対象です。最近ではサステナビリティの視点により建築構法・計画を見直し、コンバージョン(用途変更)や既存建築物の改修・再生の他、その基礎となる建築病理学などに関する各種データベースの作成・分析をしています。